

武蔵野市多文化共生推進懇談会 傍聴者アンケート

第3回実施分（令和4年8月17日開催）自由記載欄

【傍聴者 6名】

今回の懇談会の内容について、ご意見、ご感想などありましたら記入してください。

※傍聴者4名記載

【市内在住、男性、50歳代】

- ・ 中間のまとめ案 p4 と p5 の表、「全国」が「総数」になっています。
- ・ 海外に住む日本人と日本に住む外国人では、働き方、学校、コミュニティ、行政サービス、全く違うとは思いますが、海外に住んでいた日本人にもお話を聞いてみてはいかがでしょうか。
- ・ 市民住民、籍、外国人、、、どうやってもややこしいので、こだわる人のために付録で説明してはいかがでしょうか。
- ・ p4、p5 の表は武蔵野市のことを言いたいのであれば、一番上にしたほうがいいのでは。
- ・ 武蔵野市バリアフリー構想、男女共同参画、、などと連携してインクルーシブな社会づくりの一環という視点はいかがか。
- ・ 「誇り」は結果であって目標なら、 目標とする事柄→誇り
- ・ グーグル翻訳で日本語を確認する話、確か英語以外は中間言語として英語が入っているので、英語だけでいいかも。
- ・ やさしいフォント（UD）をプランを含めず一緒に使うのはいかがでしょうか。
- ・ 行政サービスにおける言語課題はある程度めどがついているようです。一方生活の場、コミュニティはどうでしょうか。
- ・ コミセン運営委員への説明会はできないのでしょうか。（パブコメ関係）

【市内在住、性別回答なし、50歳代】

- ・ p13 「誰もが誇れ、住み続けられるまちへ」がいい気がする
- ・ p10 MIA を知らない方（外国籍）が 59.6%もいるのに驚きました。
- ・ p14①金子みすゞの「私とことりと鈴と」の「みんなちがって、みんないい」なのではないでしょうか。小さい子どもも知っている詩です。Eテレで流れているので、、
- ・ これが、今日のものが会議だと思います。とてもよかったです。
- ・ 昨日の全員協議会は本当にひどかった。

【市内在住、女性、40歳代】

- ・ 傍聴者アンケートを取り入れていただきありがとうございます。
- ・ 「外国人（市民）」の言葉の定義がはっきりしてよかったです。気になっていました。
- ・ p5 在留資格別外国人比率の表についてですが、「高い知識や技術を持った外国人市民が多い」ことをアピールすることは、反面、そうではない（ホワイトカラーではない）外国人市民に対して差別的に映るのではないかと思います。選民意識みたいな、
- ・ 市の計画の悪いところは、ふんわりキャッチフレーズをつけがちなどころだと思っていたの

で、p13 のわかりにくさについてツッコミが入って嬉しかったです。「翻訳できますか？」その通りだと思います！！

・p17 プランの推進について。多言語翻訳だけではなく、子ども版も作ってほしいです。六長や自治基本条例の時のようなハンドブック版もよいと思います。

・p14 施策の方向性。①②⑦に関連する内容がいいかもしれません。今日の懇談会とは直接関係ないのですが、中高生意見から見えた「外国人観」に気になる点があったので、裏面に記入しました。お読みいただければ幸いです。

【以下裏面】

先日六長調の関連イベントで中高生対象の「むさしの未来ワークショップ」があり、傍聴してきたのですが、その中で中高生が出した市政課題の中に「外国人問題」というトピックがありました。中身はおおむね「外国人住民（が起こすと思われる）による生活トラブル」と「外国人参政権について（住民投票条例と思われる）」の2点でした。

いくつかのグループに分かれて議論していたため、すべての議論を聴けたわけではないのですが、「外国人はなんとなく何かしそう（だから色々決まりを作らなくてはいけない）」という感じで、ではどんな理由からそう思うのかという意見がないまま議論が進んでしまい、危機感を覚えました。実際には身の回りに外国人がいない、いたとしても交流がないのではないかと。だからマスコミがセンセーショナルに報じる「外国人トラブル」や、昨年12月に多く行われた「差別的な街宣」を見聞きして外国人や共文化に対するの恐れ、戸惑ってしまったがゆえに先回りした「外国人問題」を作り出してしまったのではないかと思います。

課題に対する取り組みも「日本の習慣や常識を勉強してもらおう」など、とても共生とは思えない、お互いに理解を深めようという考えが見えなかったのが残念でした。（一方、労働力を増やす取組として「外国人労働者を入れる」という意見が出てしまうのがまたやるせない思いです。外国人は日本の常識に溶け込むのであれば、労働だけはしてほしいみたいな、）このプランが策定されたら、大人の市民だけでなく子どもの市民に対しても多文化共生について学んでもらう機会を作っていただけると、この先「多文化共生を理解した外国人（や文化）に戸惑わない市民」が増え、底上げとなってよいのではないかと思います。

【市内在住・男性・50歳代】

・第2回の会議要録の市HPへのアップロードが遅い。ここへ来る2～3時間前で未アップ。
・第1回に傍聴に参加した。面白いメンバーが集まっており、良い懇談会だと感じた。第2回は所用があり不参加でした。そして本日第3回に参加して正直かなりがっかりした。懇談会は活発で新しい風も吹かせようとしているイメージだが、庁内検討委員会や教育委員会が及び腰なのではないか。これでは、当懇談会自体が茶番に見えてしまう。

・六長計との相関性を念頭に置くのであれば、「外国籍市民」との用語を置くべき。「外国籍市民」の言い回しが“センシティブ”との考え方がまったくもって不明。

・そもそも論ではあるが、「外国人」とは何ですか？外国人の定義は？外国人の対義語は日本人ですか？そうだとすれば、日本人とは何ですか？

・市民と住民では、市民の方が、定義が広いの？

・外国人住民と外国籍市民では、外国人の方が、定義が広いの？

・国籍こそ外国人だが、見た目は日本人だし、言葉や生活様式も日本になじんでいる人は、いったい「何人」ですか？

⇒つまるところ、日本国籍、外国籍、あるいは日本人、外国人という対比から頭を切り離すべきではないだろうか。ますますあいまいで表現の難しいことを要求しているのは承知だが、多文化共生という大きなテーマを扱う以上、大きな捉え方が必要を思います。

資料2について

・誇り、プライド、武蔵野らしさ、未来志向など、可視化できないあいまいな美辞麗句に頼りすぎた議論ばかり。これでは意味がない。(中間まとめ p.13 とも関連)

・「東京 2020 大会のレガシー」という文言は不要。オリンピックそのものを否定的にみている市民も多いし、レガシーという用語もあいまいな美辞麗句でしかない。

・ヘイトスピーチ解消法についての表現をなぜ避けたのか？ヘイトスピーチ解消法+当プラン=将来的にヘイトスピーチ禁止条例へ結びつけることを視野に入れるべきだし、であればヘイトスピーチ解消法との接点は書くべき。

・(4)日本語教育の推進になぜ教育委員会が及び腰なのか？

中間まとめ案より

・14 ページ「不安や抵抗を感じる市民」「戸惑いを感じる市民」という表現の際の「市民」が明らかに日本人市民としてしか捉えていない。

・武蔵野らしさにこだわりすぎに思う。武蔵野市に在住、在学、在勤の外国人市民が他の地方自治体に比べて特徴的なこともおそらく事実でしょう。(比較的能力や収入の高い方が多く、ホワイトカラーが多い etc.) とはいえ、そうではない外国人もいます。そもそもが市民全体の中ではマイノリティである外国人市民を取り残さないためのプランが、外国人の中でさらにマイノリティあるいは弱者に対する目線を失ってはいけないと思います。

・この懇談会で交わされている有意義な議論が、庁内検討委員会にきちんと生きたものとして反映されるか否かは、ひとえに事務局の腕次第ですね。期待しています。

(※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。)